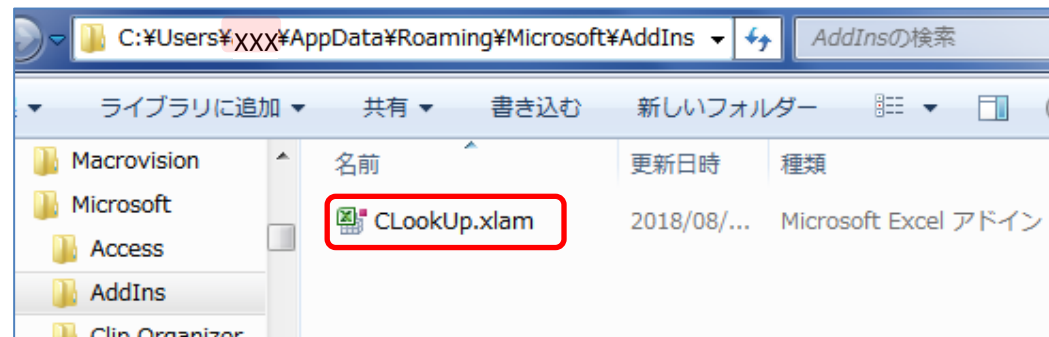


## 【1. 初期設定の説明】

## ★アドインの有効化

- ①同梱されているアドインファイル (CLookUp.xlam) を  
ユーザ環境のアドインフォルダに置きます。

C:\Users\ユーザー名\AppData\Roaming\Microsoft\AddIns  
(ユーザ名はPC環境によって変わります)

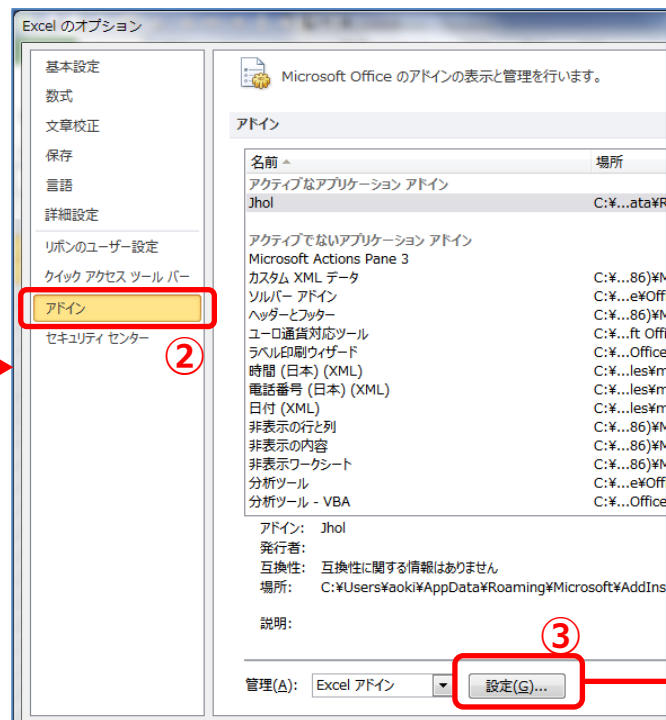


- ②Excelを開いてアドインを追加します。

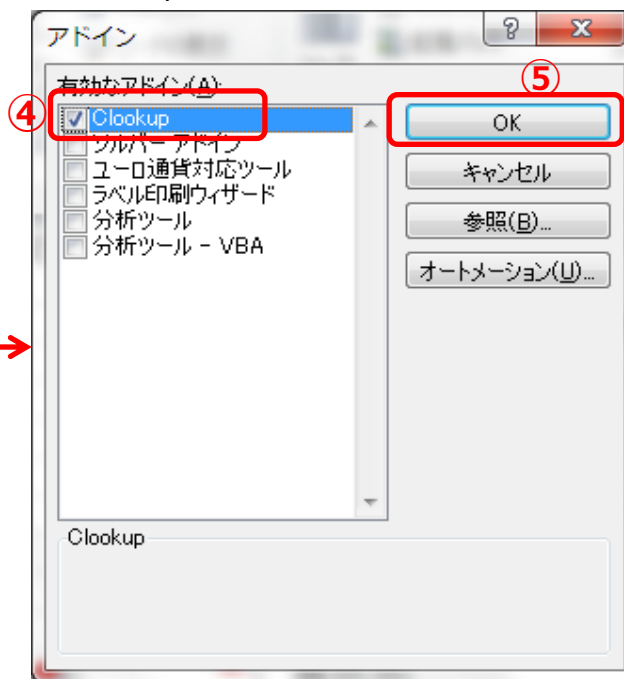
- 1)「ファイル」タブ→「オプション」を選択します。



- 2)「オプション」で「アドイン」を選択し「管理：Excelアドイン」  
となっている状態で「設定」を選択します。



- 3)「CLookUp」にチェックを入れ、OKをします。



## 【2. 関数の説明】

## ①関数の書式

**=CLookUp (検査値、範囲、検査値位置、結果値位置)**

検査値：検査値位置の列で検索する値を指定します。(必須)

範囲：目的のデータが含まれるセル範囲を指定します。(必須)

検査値位置：検索する列の位置を指定します。左端から何番目の数。(必須)

結果値位置：結果を返す列の位置を指定します。左端から何番目の数。(必須)

## ②使用例

「B4」に2018/10/9、「C4」に検査値位置 5、「D4」に結果値位置 1 を入力して、「F4」に「=CLookUp(B4,Sheet2!\$B\$2:\$F\$12,C4,D4)」の関数を入力すると検査値位置 5 (F列) の2018/10/9に該当した結果値位置 1 (B列) の値が表示されます。検索できない場合は、空白が表示されます。

F4						
=CLookUp(\$B\$4,Sheet2!\$B\$3:\$F\$12,\$C\$4,\$D\$4)						
A	B	C	D	E	F	G
1						
2	検査値	検査値位置	結果値位置		結果値	
3						
4	2018/10/9	5	1		10	
5			2		11	
6			3		12	
7			4		13	
8						
9	52	3	1		50	
10			2		51	
11			4		53	
12			5		43386	

結果値の書式が日付の場合は、シリウス値が返ってきます。受取り側のセルも同じ日付書式にします。

任意のセル範囲に検索するデータのテーブルを作成します。

B3						
fx 10						
A	B	C	D	E	F	
1						
2						
3	10	11	12	13	2018/10/9	
4	20	21	22	23	2018/10/10	
5	30	31	32	33	2018/10/11	
6	40	41	42	43	2018/10/12	
7	50	51	52	53	2018/10/13	
8	60	61	62	63	2018/10/14	
9	70	71	72	73	2018/10/15	
10	80	81	52	53	2018/10/16	
11	90	91	92	93	2018/10/17	
12	100	101	102	103	2018/10/18	

引数に文字列を直接入力しても同じ結果になります。

F14						
fx =CLookUp(52,Sheet2!\$B\$3:\$F\$12,3,1)						
A	B	C	D	E	F	G
	検査値	検査値位置	結果値位置		結果値	
					50	